



Follow me!

舞台裏レポート動画公開中！
流灯まつり当日はライブ配信予定！

特集

流灯まつりを 支える人たち

杉戸の夏の風物詩、『古利根川流灯まつり』がどのように作られているか
ご存知ですか？
意外と地道な、「地上に降りた天の川」の裏側を紹介します。



絵描きの様子

流灯まつり 舞台裏レポート

準備開始(5月中旬)

地元建具店が灯ろうの
骨組みとなる木材を加工



木材は、
杉戸町と交流のある
神川町産を使用！

灯ろうに設置する
浮き台(1本約2m)を500本用意



行政区等の
住民ボランティアが
木枠を組み立て



釘を使わない
伝統的な手法！

組立て(5月下旬)

木枠に絵や協賛企業・
団体名の紙を張り、ようやく
見慣れた灯ろうの形に！



灯ろうの大きさは
たたみ一畳分！

紙張り(6月下旬)

中間地点にイカダを設置し、
ここから上流と下流の
灯ろうをつなぐ



イカダ係留(7月中旬)

灯ろうに浮き台を固定し、古利根川に係留
地元電気工事組合が電球を取り付け



係留作業(7月下旬)
今年は7月29日(水)予定

ボランティア、
商工会会員、役場・
友好都市富岡町職員等
のべ70人以上が集結

ボランティア
募集中です！
やってみたい方は
観光協会(32-3719)
まで

杉戸ボートクラブが
上流から順に灯ろうを
5基ずつ連結



完成！



Interview



杉戸町観光協会 会長
杉戸町商工会 会長
鈴木 豊 さん

まつりをみんなで育てていくために、特に大事なことは？

住民やボランティアの協力です。本当にたくさんの人の協力で成り立っています。また、協力いただくことによって、自分たちのお祭りと意識できるので、当日がもっと楽しみになりますよね。

ここだけは絶対に見てほしいというポイントを教えてください！

現在は遊歩道ができ、安全に川辺まで下りられるようになったので、手が届きそうなほど近くから見られるようになりました。色々な角度から楽しんでほしいですね。ただ、灯ろうの光は昔と変わりません。今住んでいる方も、杉戸を離れた方も、ふるさとの記憶として心に留めていただけたら嬉しいです。ぜひお越しください。



インタビュー完全版
(町ホームページ)



▲昭和10年頃、古川橋から撮影。
当時は灯ろうの形が様々。

写真／文魁舎印刷所提供

地域の力を合わせて

古利根川流灯まつりは、昭和初期に始まりました。杉戸町・宮代町の商店会が協力し、それぞれの店が工夫を凝らした灯ろうを大落古利根川に浮かべる、店のPRを兼ねたイベントでした。

その後、一時中断していましたが、町民の中で「何か特徴のあるイベントで町おこしを」という気運が高まり、杉戸町の「本町昭和会」(駅前商店会の有志)が中心となって、平成2年(1990年)に復活しました。現在では、「古利根川流灯まつり実行委員会」が中心となって、毎年準備を進めています。